



大成寺のおたより

お盆です。皆さまでお寺にお参りください。

二挨拶

今年の夏は例年にも増して天候不順の模様ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

風が吹く

仏来給う

けはいあり

これは明治、大正、昭和と俳句の世界で活躍された高浜虚子の句です。

この風はいつたいどういった風だったのでしょうか。冷たい風か、生暖かい風か、強い風か、弱い風か、はたまた一陣の風か、たおやかな風なのか。後の言葉に続くように、「仏が来給う」、仏が身近に歩み寄られる、そういった気配を感じられたことを想像すると、おそろくは夏の蒸し暑い時期に、いやな風ではない、心地良くどこか懐かしい、ほつとする、守られ包まれるよ

うな妙（たえ）なる風なのであろうと想い起こされます。

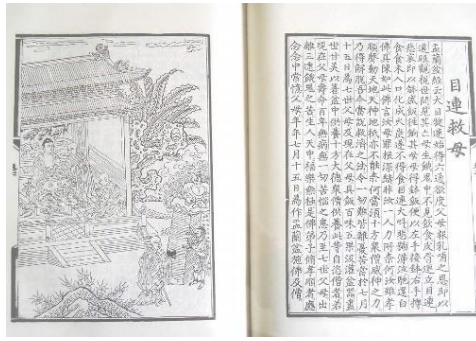
お釈迦様が阿弥陀仏の極楽浄土を私たち衆生に勧めるお経「無量寿経」では、ときおり極楽浄土で風が吹くことが説き示されています。その風は『微風（みふう）ゆるく動いて、諸もろの枝葉を吹くに、無量の妙法の音声（おんじょう）を演出す。』つまり、風が極楽に立ち並ぶ木々の枝葉を揺らし、その音がこの上ない悟りへの説法となり聞こえてくるのです。また、『自然の徳風（とくふう）ゆるく起つて微動するに、その風調和にして、宝樹を吹いて、無量の微妙（みみょう）の法音を演発しく風その身に触るるに、皆快樂（けらく）を得。』と、同じく風が宝のような樹々を揺らし、量り知れない妙なる悟りの法の音を発し、その風に触れると誰もが安らかな楽しみを得ると説かれます。

虚子を感じた風も、昔から言うところの「極楽の余風（あまりかぜ）」だったのでしよう。皆様もときおり感じる安らかな風の中に、先に往生された方から贈られた極楽の余風と受け止めて「南無阿弥陀仏」の一声で応えていただきました。思います。

**お盆のご案内です**

お盆はもちろん仏教行事です。『仏説盂蘭盆経（ぶつせつうらぼんきよう）』にある「釈迦の弟子である目連尊者（もくれんそんじや）が苦しみの世界の一つである餓鬼道（がきどう）に落ちた母親を救うため、釈迦の言う通り7月15日（陰暦）に多くの修行僧にお供えをする功德を積み、母親を救いました」という内容に由来しています。日本では8世紀に編纂された「日本書紀」に盆行事の記録があり

ます。仏教は紀元前にインドで生まれ中国、日本と伝わりました。お盆の行事はおよそ2千数百年も培われてきた先祖供養の代表です。



とかく先祖という大昔に亡くなった顔も知らない方々を思い浮かべます。しかし、先祖供養のお盆の行事の元になる『仏説盂蘭盆経』が、目連尊者の母親を救う説話であるように、一番身近に亡くなられた「親」もしくは「祖父母」こそが、先祖を思う始ま

りではないかと思えます。先祖代々を顔も知らない大昔から供養するのではなく、一番近い方の供養をできる限りの思いを尽くして行うことが、ひいては大昔のご先祖様の供養につながることになるのです。

また現在の盆行事は、この長い歴史の中で育まれ、日本人の心に染み付いた意味合いとして、3つの仏に対する供養が含まれているといえます。いわゆる先祖代々の「本仏」、新盆を迎える「新仏」、もしかするとほるか昔になんらかの関りがあつたかもしれない「無縁仏」です。

大成寺では8月16日の2時からこの三仏に対する供養の法要、「盂蘭盆大施餓鬼法要」を執り行います。平服で結構です。どなたもお参りください。また、今回が新盆にあたるご家族様はどなたか必ずお参りくださいませ。

**鎌倉大本山の道場**

6月10日から14日までの5日間にわたり、浄土宗大本山鎌倉光明寺において浄土宗僧侶の布教道場が開催され、その手伝いをしてまいりました。全国から20数名の僧侶が参加し、布教に赴く基礎を学ぶ道場です。表紙の写真は鎌倉光明寺庭園の蓮池、左の写真は光明寺本堂です。



蓮の花が開くときには、ボンと音がするといいますが、この時鎌倉は初夏の陽気に包まれていて、音が聞けるかと期



待っていました。残念ながら花は咲きませんでした。道場が終わって一日鎌倉市内の寺社を参拝しました。鎌倉といえは鶴岡八幡宮です。



ここは明治新政府から神仏分離令が發布されるまでは「八幡宮寺」という寺院でした。11世紀の創建以来800年以上続いた神仏思想が近代国家樹立の名目で政策的に仏教思想を排斥されたのです。次に「紫陽花の路」で有名な長谷寺です。長谷寺は徳川家康がお堂を修復した際に徳

川家の宗旨である浄土宗の僧侶を置き、以来、浄土宗の念仏を鎌倉の地に光明寺とともに



に広めてきました。戦後、宗からは独立しましたが、関係は保ち、念仏による阿弥陀仏の極楽浄土を勧めている浄土宗の寺院です。

境内にはご挨拶でも触れた高浜虚子の句碑があり『永き日のわれらが為の観世音』とあります。観音菩薩は阿弥陀仏の脇侍であり慈悲を象徴する菩薩です。阿弥陀仏に従えて極楽往生を勧めます。

ともいき活動報告会

6月18日には東京メルパルクホールで「ともいき財団助成事業 活動報告会」に参加してきました。

「ともいき財団」は大正3年に浄土宗社会部という浄土宗寺院の社会活動を支援する部署でしたが、後に公益財団法人として独立し、現在寺院の社会活動に広く支援助成を行っている団体です。

そこで全国の助成事業の中から分野別に14の事業が選ばれ「元町おてら食堂」にも声をかけていただき活動報告をさせていただきました。

お寺の社会活動は布施行の実践です。社会に広く隔てなく仏の慈悲が届くことを寺院僧侶の活動を通して伝え実践しなければなりません。

「元町おてら食堂」開催の折は是非お誘いあわせの上、奮ってご参加くださいませ。



(右) 活動報告の様子

# 目からウロコの 浄土宗の基本

⑤

## 「仏」にも役割がある話

仏教といえは仏の教えであろうと皆さまご承知のことと思ひます。では、「仏」とは何でしょうか。そもそも仏とはインドの言葉サンスクリット語で buddha (ブツダ)、意味は「目覚めた人」のことをさします。これが中国に渡り漢字に音写され「仏陀」となり、略されて「仏」となりました。もちろんお釈迦さまのことを指します。

そのお悟りの内容がお経(経典)として記され、お釈迦さまご自身の他にも頼るべき「目覚めた人」「仏陀」「仏」がいることをお経の中に説き示されたのです。

毘盧遮那仏(びるしやなぶつ)、薬師仏、弥勒仏、など数多くの「仏」が経典には示されますが、その働きは別々です。例えば毘盧遮那仏は大日如来と同一とされ、この世のすべての理(ことわり)を表し、理そのものが毘盧遮那仏です。仏の側から私個人に作用する働きはなく、その真理を体得するためにはこの私たちが自身が「目覚め」なければ理解できず、救われたいのです。そのため修行をし続けることが毘盧遮那仏を本尊とする宗派です。

浄土宗の本尊の阿弥陀仏は仏の側から作用する働きを持ちます。阿弥陀仏は「目覚め」られない我々を極楽浄土に迎えることを目的として「仏」と目覚めてくださったからです。また、常に救いの光で照らし続け、名前を呼ぶものを救い取られます、そして、命終わるとき必ず迎えに来てくださいます。

あらゆる仏典の中でも、悟れない我々(凡夫・ぼんご)を仏の世界へと救うことのできる役割をもった「仏」は、浄土宗の本尊である阿弥陀仏しかいらつしやらないのです。

(副住職)

## おてらおやつクラブ



先般、いつもお寺からお菓子を提供する生活支援相談センター「くらしごと」さまからお礼の色紙が届きました。玄關募金箱に飾っています。お檀家への感謝のお言葉です。手に取ってごらんください。

仏さまのおさがりをいただくのは貧困家庭の子供たちです。子供たちの喜ぶ顔を思い浮かべていただいて箱の中には自分が食べたいような日持ちのするお菓子をに入れてください。よろしくお願いします。

## お盆がまいります

お盆は毎年恒例の季節の行事でございます。普段地方にいて離れていらつしやる方も家族親戚一同が集まって、夏のお盆の雰囲気をお寺とおして感じて欲しいと思います。

また、お送りの志納袋の裏面には皆様の「自宅に何う日」にちが書いてございます。お確かめの上あらかじめご用意ください。

お盆飾りは8月1日から飾っていただいてかまいません。お盆中(13日〜16日)はお寺の納骨堂でお待ちしております。お盆を控えては、早めに準備をして怠りなく迎えますように。

## 鉦路市仏教会 主催 孟蘭盆おくり火法要

日時 8月16日午後6時半  
場所 鉦路川入舟岸壁

おくり火ローソクは16日4時までお寺へお申し込みください。

費用 一霊 1000円